

■羽仁もと子 ジャーナリスト・教育家。婦人記者の先駆、夫と{婦人之友}発刊後、キリスト教に基く{自由学園}創設。

はにもとこ

明治6年政変 1873 = 青森県三戸郡で、旧八戸藩士の家に生まれる。旧姓松岡。

明治14年政変 1881 = 8歳：
新体詩抄・ 1882 = 9歳：

帝国憲法発布 1889 = 16歳：上京し、東京府立第一高等女学校に入学、
足尾鉾毒始・ 1891 = 18歳： 在学中に受洗して、卒業。東京高等師範学校を受験して失敗したため、かねて愛読していた{女学雑誌}の理想が実現されたという明治女学校高等科に、巖本善治に窮状を訴えて月謝が免除されて進学、{女学雑誌}の編集も手伝う。
大本教・ 1892 = 19歳：2度目の夏休みに帰郷すると、そのまま学校に戻らず、盛岡女学校の教師となり、
日清戦争始・ 1894 = 21歳：結婚して関西に移住するも、半年で離婚して、再び上京、吉岡弥生宅で働き、女子語学校付属小学校の教師となるも、書くことへの渴望著しく、
八幡製鉄始・ 1897 = 24歳： 報知新聞社の職業欄に校正係入用とあるのを見て訪問、男子のみというところを無理押しして受験、{女学雑誌}の編集を手伝ったことがきいて、合格入社し、
Bushidou・ 1899 = 26歳： 自発的に書いた記事が社主の三木善久に褒められて、正式の記者に採用され、婦人記者の先駆となるが、
ビア/国産化・ 1900 = 27歳： 同僚記者の羽仁吉一と結婚、職場結婚が許されずに退職。
田中正造直訴 1901 = 28歳： 内外出版協会経営者で近代児童雑誌の源流とされる{少年園}を発行した教育者山県悌三郎に触発されて、
日比谷公園・ 1903 = 30歳： *夫妻共同で生活雑誌{家庭之友}を創刊、第4号の禁酒美談が大反響となり、
日露戦争始・ 1904 = 31歳： 独自の家計簿を創案して出版、
日露戦争終・ 1905 = 32歳： {主婦日記}も発刊するなど、増大しつつあった中産階級の家庭婦人の啓蒙を目ざし、男中心の家に代わる夫婦による家庭づくりを唱えて、部数を伸ばしたが、内外出版協会との間がまずくなったため、
韓国反日暴動 1907 = 34歳： *{家庭之友}を手放し、実質的にその内容を継承する{婦人之友}を満を持して発刊。{青年之友}を編集していた夫もそれを休刊して、夫妻で全精力を傾け、以後没するまで自ら巻頭言を書き続ける。
アヲヲ 創刊・ 1908 = 35歳：
伊藤博文暗殺 1909 = 36歳：
明治天皇没・ 1912 = 39歳：
第一次大戦始 1914 = 41歳： _{子供之友}を創刊、

本格政党内閣 1918 = 45歳：

原敬首相暗殺 1921 = 48歳： *新教育運動の流れの中で、自由学園を創立、キリスト教的自由主義に基づく自由、自治の女子教育を創始した。校舎は帝国ホテルを手がけたフランク=ロイド=ライトに設計依頼し、文部省令によらない生活中心教育は、第二次大戦前の自由主義教育の象徴となった。
関東大震災・ 1923 = 50歳： _{婦人之友}読者組合を組織し、

金融恐慌・ 1927 = 54歳： 自由学園初等部が発足。

海軍軍縮条約 1930 = 57歳： _{全国友の会}に発展させて、生活改善・社会改良運動を展開するとともに、予約販売制を断行すると、発行部数は倍増する。

満州事変・ 1931 = 58歳：
五一五事件・ 1932 = 59歳： フランスのニースで開催された世界新教育会議に出席し、自由学園教育について講演、

芥川直木賞始 1935 = 62歳： 自由学園男子部も設置。
二二六事件・ 1936 = 63歳：
日中戦争始・ 1937 = 64歳：

日米開戦・ 1941 = 68歳：

敗戦・ 1945 = 72歳：

三大事件・ 1949 = 76歳： _新制大学発足にあわせ、大学に相当する最高学部を設置して、

独立回復・ 1951 = 78歳：

自衛隊発足・ 1954 = 81歳：
55年体制始・ 1955 = 82歳： 夫吉一が急逝、{婦人之友}巻頭言で深い失望と哀しみを述懐、
国連加盟・ 1956 = 83歳： _{婦人之友}巻頭言「たましいの微笑」を絶筆に、
なべ底不況・ 1957 = 84歳： _没した。

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，「女たちの20世紀・100人」，「日本の女性」，インターネット，